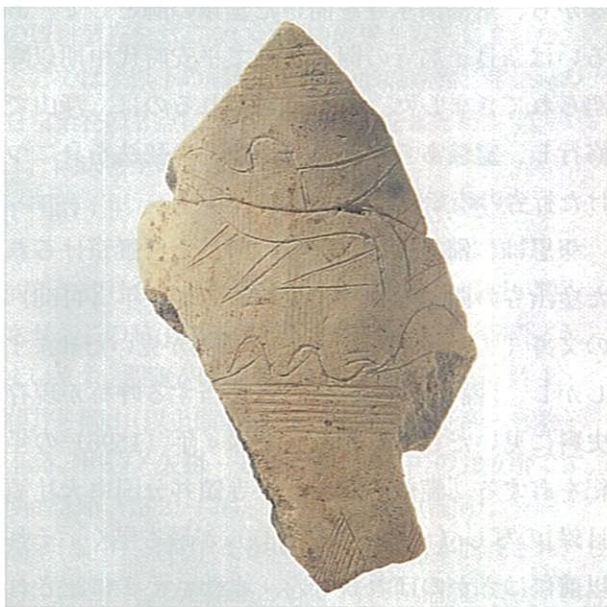
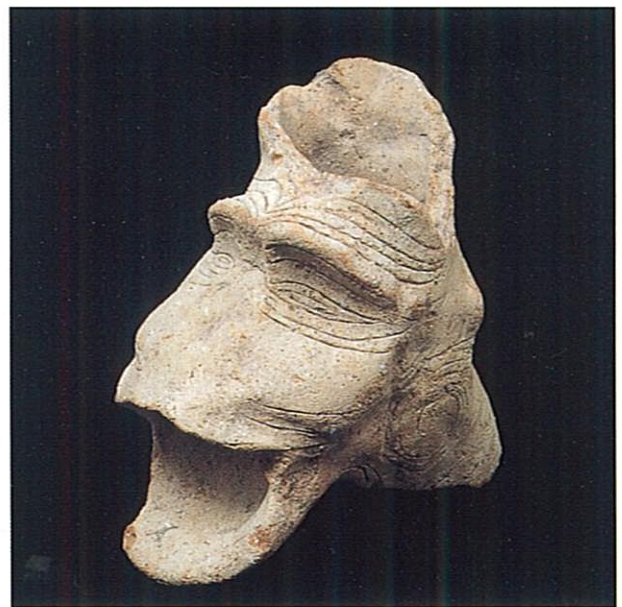


## 竜のかたち二題 特別展展示資料より



竜を描いた弥生土器(器台) 岡山市教育委員会蔵



竜形土製品 倉敷市教育委員会蔵

岡山県立博物館平成14年度特別展「あめ・つち・ひと一遺物が語る自然とのかかわり」（会期 平成14年10月25日～11月24日）は、日本列島の自然環境の中で暮らしてきた私たちの祖先が、自然とどのようにかかわってきたのか、考古学の立場から検証する展覧会です。

展示品の中に竜を表現した非常に興味深い遺物が二種類ありますので紹介します。一つは竜を描いた土器、もう一つは竜をかたどった土製品で、いずれも弥生時代後期の所産と考えられるものです。

中国の想像上の動物である竜は、雲を起し雨を呼ぶ力をもった水を司る精霊とされました。弥生時代後期の日本に伝えられた竜の意匠は、方格規矩鏡など中国の鏡に描かれたものを写したと考えられています。西日本を中心にみられ、弥生時代後期の土器に描かれる例がほとんどです。描かれた竜の多くは、形が崩れて抽象化された表現になっており、一目で

竜とわかるものではありません。

岡山市天瀬遺跡から出土した器台には波の上に出現した竜が描かれています。遺跡は海に近い立地で、ほかにミニチュア土器など祭りにかかわる出土品が見つかっています。この竜の絵は、海への祈りを示すもの、あるいは雨乞いの祭りにかかわるものと考えられます。

倉敷市矢部で見つかった竜形土製品は、今から40年ほど前に地元の水田から出土したもので、長い間倉敷市立庄中学校に保管されていました。頭部だけを残すものですが、立体的な造形で、目や口、鼻などの表現が非常に写実的です。また、頬から後頭部にかけて円弧や直線を組み合わせた呪術的な文様が施されています。中国でつくられた竜形の青銅製品を真似たものと思われませんが、国内ではほかに出土例がなく、大変貴重な資料です。

（学芸員 小松原基弘）

只今準備中

特別展

## 備前四十八ヶ寺

近世備前の霊場と報恩大師信仰

平成15年1月31日(金)～3月2日(日)



岡山県指定重要文化財 木造 阿弥陀如来坐像 岡山市 金山寺蔵

本年度2回目の特別展は「備前四十八ヶ寺」をとりあげます。

「備前四十八ヶ寺」は、報恩<sup>ほうおん</sup>(?～795)が備前国内に開いた、あるいは中興したと伝承される寺々の結集です。また、備前地方以外でも日差山(倉敷市)や蓮台寺(倉敷市)など備中地方にまで及ぶさらに多くの寺院が報恩の伝承を持っており、

県南一帯では、「行基」「弘法大師」伝承に匹敵するひろがりを見せています。しかし、この報恩なる人物がかくも有名なのは、この備前を中心とする地方と大和から吉野にかけての地方だけなのです。

そもそも報恩とはいかなる人物なのでしょう。じつは、その実在さえ確信はできません。しかしながら、京都清水寺を開いた延鎮<sup>えんちん</sup>の師として、あるいは奈良子島寺の開基として平安時代中期以降語られてきました。そこに語られるのは、深山で修行し、霊験あらたかな千手観音の秘法を身につけた行者の姿です。

報恩は、備前四十八ヶ寺の頂点と位置づけられた金山寺の開基として、すでに仁安3年(1168)の文書(『金山寺文書』)にその名が見いだせます。しかし、「備前四十八ヶ寺」に相当する呼称が現存史料に見いだされるのは、文禄4年(1596)の年紀を有する「備前国四拾八ヶ寺領并分国中大社領目録」の写し(『金山寺文書』)が最も早く、それ以前にはさかのぼれません。また、そこに記された寺の中でも、その時点において自山の開基・中興を報恩と結び付けていない例も多くあります。報恩の備前誕生説をはじめ、「報恩大師信仰」が備前地方を中心に広がり、それが定着してゆくのは江戸時代も後期のことと考えられます。

報恩に対する信仰はなぜ備前地方に広がったのでしょうか。四十八ヶ寺の結集はどのように形成されたのでしょうか。また四十八ヶ寺を結ぶ信仰の共通点は何なのでしょう。

この展覧会では、これらの疑問に対し推論してゆくための資料を集めてみます。「答えはこうだ」とは言い切れないかもしれませんが、四十八ヶ寺にかかわる文書史料や美術工芸品などの語りかけに耳を傾けて、それなりに推論してみたいと思います。

(学芸員 中田利枝子)

## 研究レポート

岡山県における  
郵便制度のあゆみ

平成14年度の秋季展では、明治初年から20年代にかけて岡山県下の郵便連絡網の形成と、当時の郵便業務のありかたを明らかにするという目的で、県下の資料調査をおこない、その成果を展示しました。ここでは、県下の郵便連絡網の形成過程、郵便局の日常業務の2点についてその内容をまとめます。

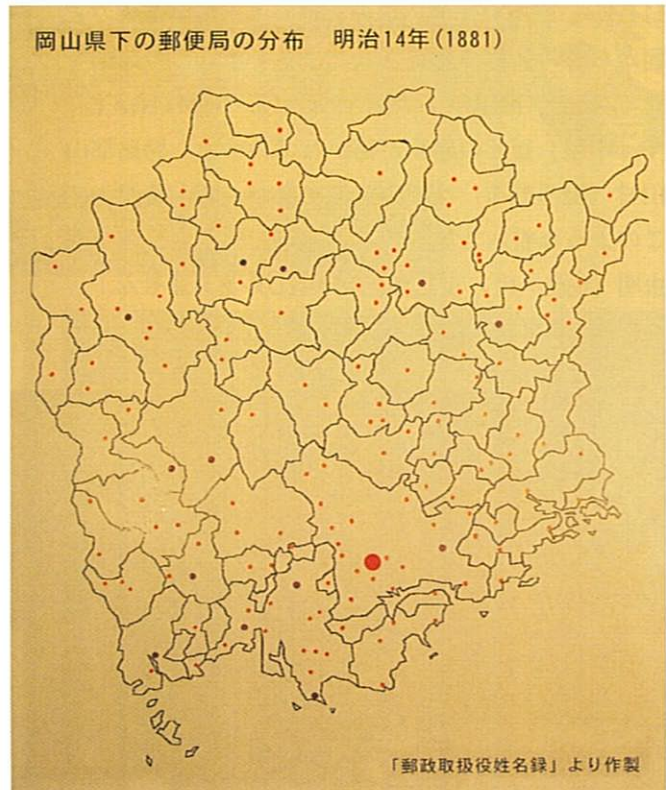
## 1. 岡山県下の郵便連絡網の形成

明治4年(1871)3月1日、前島密の建言により、東京—京都—大阪を結ぶ郵便制度がはじまりました。同年の12月5日より東京—長崎を結ぶ郵便が開設され、この時山陽道の宿駅に郵便取扱所が開設されています。設置が確認できるのは東から三石・片上・藤井・岡山(以上備前)、板倉・足守・庭瀬・倉敷・玉島・川辺・矢掛・七日市(以上備中)の12カ所です。明治5年(1872)には、1月に西大寺(備前)、笠岡・高梁(備中)、津山(美作)に郵便取扱所が開設され、6月には四国との連絡路として下津井(備前)に、7月には美作国出雲街道沿いに、勝間田・久世・垂水落合・真島などの取扱所が設置されています。この年の7月1日より郵便の全国実施がおこなわれており、出雲街道沿いの取扱所設置はこれに対応するものと思われます。

明治6年4月には、郵便料金の全国均一制が施行され、5月には郵便事業の政府専掌が示されました。しかし、この年には小串(備前)の設置が確認できるくらいです。岡山県下に、郵便取扱所が一気に開設されるのは、明治7年12月のことで、備前で14カ所、備中で8カ所、美作で6カ所の設置が確認できます。明治8年には郵便局へと呼称が改正され、その後も郵便局の設置が進みました。明治14年度には、備前59、備中51、美作48局の設置が「郵便取扱役姓名録」に記されています。上の図は当時の郵便局の分布を地図上に落としたものです。

## 2. 郵便局の日常業務について

ここでは、今回資料の提供をいただいた真庭郡川上郵便局(当時は上徳山郵便局)を中心に、日常業務のありかたについて述べます。明治13年(1880)に上徳



山局は開局しています。開局にあたり、<sup>えきてい</sup> 駅通局長前島密より法華与六あてに辞令の交付が行われました。郵便取扱所や郵便局の開設にあたって、明治政府は民間の資産家や名望家を郵便取扱役に任命し、居宅の一部の提供を受け、郵便業務にあたらせています。明治20年(1887)の記録によると、上徳山局の担当区域は9カ村623戸におよび、管内に郵便切手売下所<sup>うりさげしよ</sup>4カ所と郵便掛箱(ポスト)4カ所が設置されました。郵便局員数は、局長1名・雇い1名・集配人2名・<sup>ていそうにん</sup> 遞送人1名の計5名で、集配人は、1日2回ポストから郵便物を集荷し、毎日午後1時30分より、郵便の配達をおこないました。遞送人は上徳山と湯本局(現湯原町)<sup>ゆもと</sup>を結び郵便物の取次をおこなっています。郵便局の諸経費や切手はがきの販売代金・取扱郵便数は月別に集計され、年表の形で半年ごとに岡山の通信出張所に報告されています。

上徳山局の資料調査にあたり、川上郵便局長法華道民氏のご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

(主査 貝原靖浩)

## 資料あれこれ

### 「御陣屋惣建物之図」の正体は？

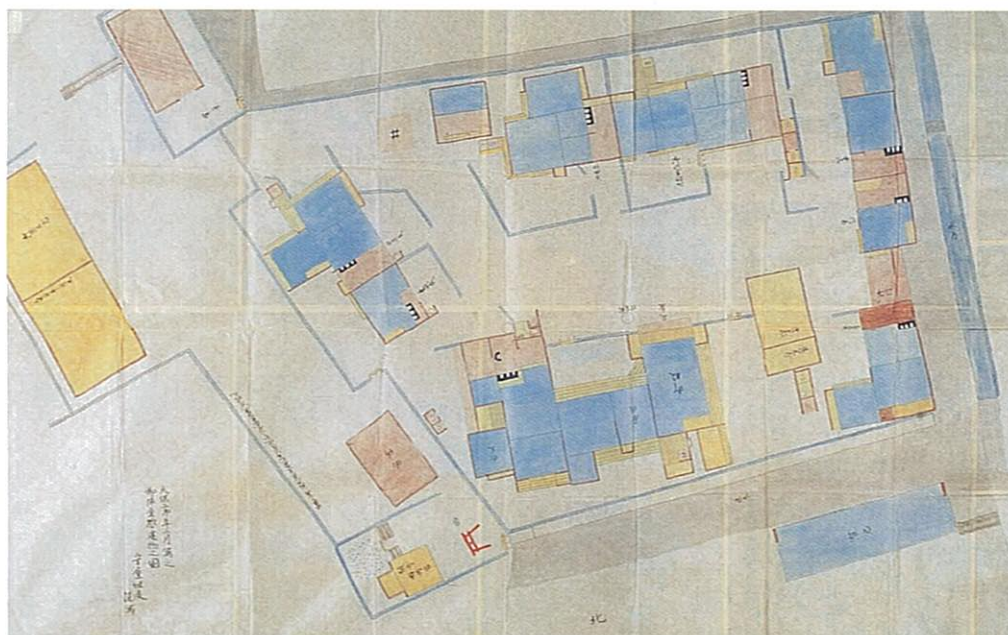
館蔵資料のなかに、「児島郡山田村御陣屋惣建物之図」の名称で登録されている1枚の絵図(71.4㌢×114.3㌢)があります。この資料の入っていた袋の表題からこの名称で登録されたようです。この絵図を見ても、陣屋の「御殿」のほか、「御代官部屋」や「牢屋」などの建物が描かれています。児島郡山田村(現玉野市)は岡山藩領ですが、岡山藩領内でこのような整った施設のある陣屋というと、邑久郡虫明(現邑久町)など家老の陣屋しかありません。

では、この絵図はどこの陣屋なのでしょう。〔饗

港略量之図〕という絵図が『新修倉敷市史』第3巻に一部写真で掲載されています。このなかに描かれている亀山御役所が、その敷地の形状や道路・門・神社の位置などほぼ同じです。亀山御役所とは、丹波亀山藩(藩主松平氏)の役所のことで、亀山藩は浅口郡内7カ村を領地としており、7カ村を支配するため玉島(現倉敷市)に陣屋を置いていました。絵図の中に寺澤・田辺・金田・高見などの人物名が記されています。亀山藩の資料から玉島陣屋詰の役人に同姓の人物がいることが分かります。

以上のように、この絵図は丹波亀山藩の玉島陣屋と考えて間違いのないでしょう。時には先入観を捨てて資料に接する必要があることを痛感いたしました。

(学芸員 横山 定)



〔御陣屋惣建物之図〕

#### 岡山県立博物館

#### これからのスケジュール

2002	10/25～11/25	特別展「あめ・つち・ひと」1～2室
2002	11/29～12/12	常設展「岡山から見た赤穂事件」3室
	12/13～1/6	全館燻蒸のため休館
2003	1/7～1/26	新春特別陳列国宝「赤韋威鎧」「太刀山鳥毛」企画展「研ぎあがった赤羽刀」3～4室
2003	1/31～3/2	特別展「備前四十八ヶ寺」1～4室
2003	6	博物館講座

#### ギャラリートークのお知らせ

2002年9月から、毎月第2・第4土曜日の午後1時30分より、博物館学芸員によるギャラリートークを行っています。これまで特別展・企画展でのみ行っていたギャラリートークでしたが、来館者の要望により、定期的に行うことにしました。この時間にご来館頂ければ、学芸員の熱い語りがいっつもお聞きになれます。どうぞご参加下さい。

#### 岡山県立博物館だより 第58号

- 発行日/平成14年11月1日
- 発行者/岡山県立博物館 館長 松井新一
- 連絡先/〒703-8257 岡山市後楽園1-5 ☎086-272-1149
- ホームページアドレス/http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm